

# 京都ユニット移転における CDMの位置付け

ISAP 2010 持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム

2010年7月12-13日

大久保 望

地球環境戦略研究機関  
市場メカニズムグループ

## JIの現状

- 登録プロジェクト数: 170
- 369件のプロジェクトについての情報が公開
- PDDに記載された排出削減量の合計:  
2012年までに440百万 t-CO<sub>2</sub> \*
- 主なホスト国: ロシア、チェコ共和国、ウクライナ
- 主なプロジェクト種類: メタン回収、省エネ、燃料  
転換、漏洩防止など、産業及びエネルギー供給  
関連
- 移転済みERU: 9.4百万t-CO<sub>2</sub>(2008 ~ 2009年)

\* 74件のプロジェクトについては排出削減量が不明でこの量には含まれない。  
出所: IGES JI データベース(2010年6月1日時点)。

# JIとCDMの比較

- 京都ユニット発行量

	2008-2009年の発行量	第一約束期間における予測発行量
CDM (CER)	366百万	980-1,700百万
JI (ERU)	9百万 (予想値)	180百万

出所: IGES CDM データベース、IGES JI データベース、UNEP Risoe JI Pipeline overview, ポイントカーボン

- 第一約束期間におけるJIからの予想発行量はCDMの1/10 ~ 1/5
- CDMと比べ制度整備が遅れた
- CDMよりも手続きに時間のかかる傾向

JIはCDMより制度確立が遅く、京都ユニット移転への貢献もはるかに小さい

3

## グリーン投資スキーム (GIS)

- 附属書I国政府間でのAAU移転
- 一度に大きな量の移転
- 利益は移転元の国の温室効果ガス削減や環境改善プロジェクトに利用
- 2008年: 契約・移転ともにほとんどなし
- 2009年: 合計416百万 t-CO<sub>2</sub>の移転契約締結 (同年に移転されたのはその一部)

GISは京都ユニットの供給および移転に著しい影響を与えつつある

4

# AAU 移転のサマリー (2008 ~ 2009年)

単位: 1,000 t-CO<sub>2</sub>

移転元	移転先	EU15	EU12	ウクライナ	日本	スイス	その他
	合計						
	合計	4,096,607	117,247	0	97,657	63,603	15,860
EU15	3,949,004	(3,816,915)	96,659	0	109	20,001	15,320
EU12	350,434	256,696	(20,588)	0	51,150	22,000	0
ウクライナ	52,633	0	0	-	31,061	21,572	0
日本	0	0	0	0	-	0	0
スイス	23,470	8,133	0	0	15,337	-	0
その他	15,403	14,833	0	0	0	30	540

出所: IGES登録簿データベース

5

# CER 移転のサマリー (2008 ~ 2009年)

単位: 1,000 t-CO<sub>2</sub>

移転元	移転先	EU15	EU12	日本	スイス	その他
	合計					
	合計	785,451	35,500	88,189	238,866	3,744
CDM登録簿	329,935	216,494	0	47,083	64,718	1,640
EU15	551,749	(349,749)	22,635	16,794	161,953	618
EU12	23,307	20,238	(1,686)	0	1,383	0
日本	18,299	7,396	126	-	10,777	0
スイス	224,641	190,207	10,436	24,312	-	486
その他	2,403	1,367	0	0	36	-

6

# ERU 移転のサマリー (2009年)

単位: 1,000 t-CO<sub>2</sub>

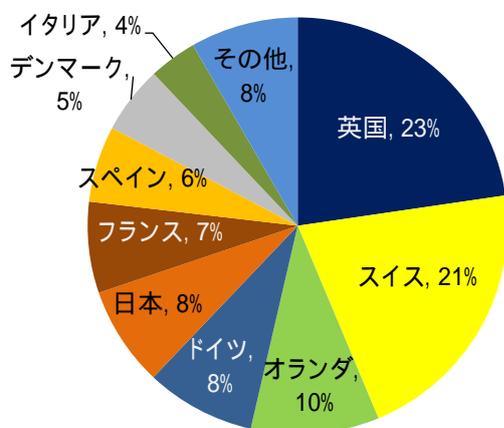
移転元	移転先	EU15	EU12	ウクライナ	日本	スイス	その他
	合計	合計	5,230	359	0	728	2,942
EU15	2,182	(1,491)	135	0	129	427	0
EU12	1,949	1,502	(144)	0	120	99	84
ウクライナ	3,238	876	0	-	0	2,362	0
日本	54	0	0	0	-	54	0
スイス	1,386	887	80	0	419	-	0
その他	534	474	0	0	60	-	-

7

## CERの取得と国外への移転における傾向 (2008-2009年)

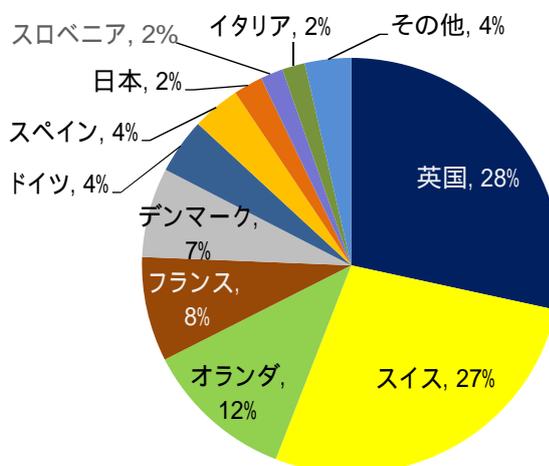
出所: IGES CDM データベース

CDM登録簿及び国外からのCER移転量の国別割合 (2008-2009年)



合計: 1,136百万CER

国外へのCER移転量の国別割合 (2008-2009年)

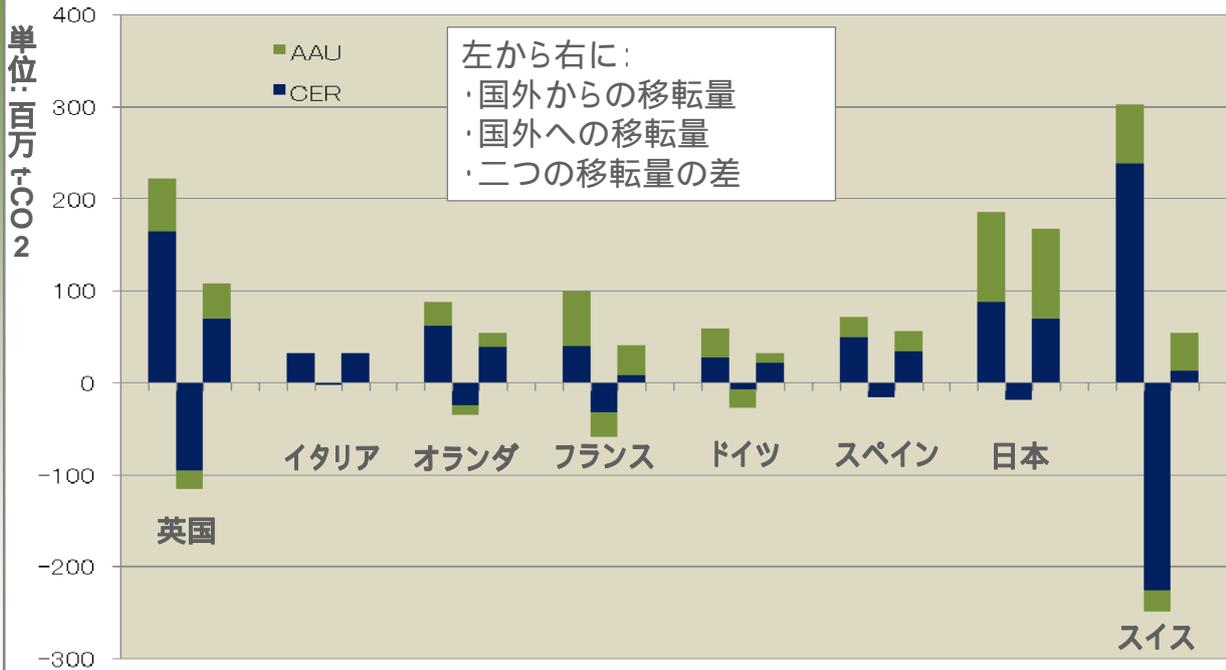


合計: 820百万CER

英国、スイスなどは移転の中継点となっており、日本は目標遵守の目的でCERを取得している

8

## 主な京都ユニット移転先のAAU及びCERの 国外からの移転量、国外への移転量とその差(2008-2009)



CERに加え、目標遵守に向けてのGISからのAAU移転も増え始めた

9

## 要約と結論

- CDMはプロジェクトベースの市場メカニズムとして経験を蓄積
- CDM: 実施プロジェクトによる削減量に対する発行  
GIS: AAU売却利益による排出削減プロジェクト実施  
例はまだ少ない
- GISは2009年に契約量及び移転量が増え始め、京都ユニット供給源としてCDMとの競合が始まりつつある
- CER発行の不確実性→京都ユニット需要がGISへ？



CER手続き上の問題によるCERに対する需要の低下を避けるための改善が重要(プロジェクトの登録やCER発行手続きの簡素化、標準化ベースラインの設定など)

10